

# デンマークの幼小移行期「0学年」に関する考察

—言語評価プログラムに焦点を当てて—

A Study about the Pre-school Class "0 grade" in Denmark

: Focusing on Language Assessment Program

児玉 珠美 Tamami Kodama

(愛知学泉短期大学幼児教育学科)

## 抄 録

デンマークは 2000 年以降、言語、数学リテラシーの早期教育を重点目標とした公立学校の教育改革を推進している。幼小移行期であるプリスクールクラスの改革が重点的に実施されている。デンマークのプリスクールクラスにおいては、生活基盤型の学びが重視されているソーシャルペダゴジーの伝統が継承されてきたが、2009 年に義務教育となり、2012 年には教科カリキュラムが導入された。さらに保育と教育の質的向上をめざし、3・6 歳の言語評価プログラムの実施されている。早期の言語教育実施の背景にあるのは、デンマークの社会の抱えている問題があると考えられる。生活基盤型の学びを重視してきたデンマークのプリスクールクラス「0 学年」の改革の背景には何があるのか。0 学年における言語評価方法はどのようなものなのか。本論においては、デンマークの幼小移行期のプリスクールクラスである 0 学年の改革内容及び言語評価について明らかにすることを目的とした。

研究方法としては、デンマーク教育省及びデンマーク教育評価研究所 EVA (Denmarks Evalvergsinsitut) の資料を中心に 0 学年の学習テーマの変遷、現在の学習内容、0 学年における言語評価の目的と方法等について明らかにした。

考察を通して、デンマークが教育の大きな転換期を迎えようとしているということがわかった。これまでの伝統的な教育の問題点を明らかにし、国家の人材教育という視点での教育改革を本格的に始動しているといえる。その最重要テーマが、すべての子どもたちの早期教育と言語発達の保障ということであることがわかった。幼小移行期としての 0 学年へのカリキュラム導入や言語評価によって、個々の子どもに応じた具体的な支援を研究機関と自治体との連携により、実現性の高いものに行っていることも明らかになった。

## キーワード

デンマークの保育と教育 day care and education in Denmark プレスクールクラス pre-school class  
言語評価 language Assessment 幼小移行期 childhood transition period

## 目 次

- 1 はじめに
- 2 義務教育 1 年延長及び言語評価導入の背景
- 3 0 学年について
- 4 3・6 歳の言語評価について
- 5 教育研究機関と自治体との連携
- 6 考察
- 7 おわりに

## 1 はじめに

デンマークの教育の底流には、グルントヴィ<sup>注1)</sup>とクリステン・コル<sup>注2)</sup>教育理念があることがBorisy (1991) 等<sup>1)</sup>の研究により明らかにされている。生きた言葉による対話や相互作用を重視した、生活に根差した学びを重視する教育理念であり、デンマークの教育制度や評価方法に大きな影響を与えてきたといえる<sup>2)</sup>。しかしながら、2000年以降、デンマーク教育省は言語、数学リテラシーの早期教育を重点目標とした公立学校の教育改革を推進している。1999年にデンマーク教育評価研究所 EVA (Denmarks Evalveringsinstitut) が設立され、様々な改革プランを提案している。2009年にはプリスクールクラスの幼稚園クラスが義務教育段階に導入され、義務教育期間は9年間から10年間となった。2011年には保育新法案において、保育の質向上のためのカリキュラム導入がなされた。その後、2012年には新しい学校プロジェクト「Den nye folkeskole」が始動され、公立学校の抜本的な改革が現在も継続して実施されている。この新しい学校プロジェクトにおいては、0歳から18歳までの教育保障を目的としており、プロジェクトの根幹となるのが就学前教育と義務教育の改革であり、その移行期であるプリスクールクラス「幼稚園クラス (Bønehaveklasse)<sup>注3)</sup> 0学年」が教育の基盤構築の重要な時期であるとし、重点的に改革を実施してきた。

デンマークの幼小移行期であるプリスクールクラス「幼稚園クラス」においては、これまでは生活基盤型の学びが重視されているソーシャルペダゴジー<sup>注4)</sup>の伝統が継承されてきたが、2012年、「幼稚園クラス」に教科カリキュラムが導入された。さらに2013年に教育省は、保育施設から幼児クラス0学年へのスムーズな移行のための「良い移行 (God Overgang)」プランを実施した。中でも、保育カリキュラムの充実化と3・6歳の言語評価プログラムは、すべての子どもの発達保障を目標とし、就学前から取り組んでいる教育施策のひとつである。早期の言語教育実施の背景にあるのは、デンマークの社会の抱えている問題があると考えられる。

生活基盤型の学びを重視してきたデンマークの0学年の義務教育導入の背景には何があるのか。0学年における言語評価方法はどのようなものなのか。本論においては、デンマークの幼小移行期である0学年の学習内容及び言語評価について、デンマーク

教育省等の資料を通して明らかにすることを目的とする。

## 2 義務教育早期開始及び言語評価導入の背景

デンマーク教育省は、「デンマークの公立学校は民主的なプロセスを学び、デンマーク市民として未来の人生を準備する機関であり、学生の能力の多面的な開発のための教育を推進している。公立学校の初年度においてはデンマーク語と算数の能力は高く、さらに最終学年においては素晴らしい対人関係スキルとディスカッション文化を持っている<sup>3)</sup>」としながらも、約17%の学生が十分な言語と数学能力を獲得しないまま、義務教育段階を終了している現実に対し、公立学校の水準の改善の必要性を主張している。このような基礎学力がすべての子どもたちが習得できていない背景には、移民<sup>注5)</sup>の問題も存在している。教育改革の主な背景として考えられる要素を、OECDの報告書<sup>4)</sup>を参考にまとめてみる。

### ① 教育投資が学力に反映していない現状

デンマークのGDPに占める教育費は、OECD諸国のトップである。しかしながら、PISA結果は、2006年読解リテラシー57か国中19位、数学リテラシー19位、2009年読解リテラシー67か国中24位、数学リテラシー22位であった<sup>5)</sup>。この結果に関して、教育投資の効果が問われている。

### ② 公立学校の質の問題

デンマーク国家を支えていくべき人材育成として、国際競争力に対応するための学校教育が今後必要とされている。伝統的な自由な教育の良い面もあるが、それだけでは、グローバル化時代に取り残されてしまう危険性がある。OECD諸国の中でも、授業時間数が少なく、授業カリキュラムについても学校や教員の自由度が高いことが、教員の質の低下を招いている可能性がある。

### ③ 移民の子どもたちの教育保障の問題

外国人出生人口の割合は、1998年の5.4%から2007年の6.9%となり、増加率は27.9%となっている。15歳時点において、ネイティブと移民の子ども読解力に顕著な差も出ている。また、1世の子どもは就学前教育を受ける割合が低いという調査結果も出ている。現在の公立学校における移民の子ども割合は30%~40%であり、デンマー

ク語の習得が大きな課題となっている<sup>9)</sup>。

さらに、デンマーク語習得が困難である家庭環境の問題も存在している。学校での言語と家庭での言語が異なる環境であることや、家庭での学習支援のための環境が整っていない状況があり、幼少期からの読書活動の不足も言語習得の大きな障壁となっている。

これらの問題の解決に向けて、教育省は「新しい学校改革 Den nye folkeskole<sup>7)</sup>」を推進してきた。学校改革の目標として、下記の3点を掲げている。

- ① 学校は、すべての子どもたちおよび若者たちの才能を伸ばしていけるよう挑戦していく。
- ② 学校は、教育の背景となる子どもたちの社会的文脈が教育成果に影響しないように努力していく。
- ③ 学校は、専門的な知識と実践を通じて、学校教育の自信と幸福を強化していく。

さらに、重点目標を下記の4点としている。

- ① 保育、初等教育、中等教育を含む、0歳から18歳の教育の開発
- ② 保育所における専門的な知識と実践の強化
- ③ 保育と教育の質的向上のための連携ネットワーク、知識共有、開発のための教育実践
- ④ 他の機関と連携しながら、教育および専門能力開発を扱うフレームワーク構築

0歳から18歳までの教育保障のためには、移行期間における発達保障が重要であることから、教育省の管轄下にプレスクールクラスである幼稚園クラスを置き<sup>8)</sup>、抜本的な改革を実施したのである。改革に関する事項すべては、私立学校も実施することが法律で定められている<sup>9)</sup>。

### 3 0学年について

#### (1) 幼稚園クラスから0 klasse (ノルテ・クラセ) への経緯

デンマークの幼稚園クラスの歴史は長く、その発足は国民による自発的な運動によって始まっている。1912年にエスビャー (Esbjerg) という漁師町で、漁港労働者である女性たちのために、町の学校長が「Forklasse (前クラス)」を設置し、6歳児77名が

通い始めた。この「Forklasse」が全国的に広がり、1962年に学校法が変更され、Bønehaveklasse (幼稚園クラス) と呼ばれることとなったのである<sup>10)</sup>。

その後、1980年にすべての自治体において幼稚園クラスの設置が義務化された。幼稚園クラス発足の経緯を見る限りにおいては、デンマークにおける「保育園と学校間の架橋」となる接続期の設置は、国民の自主的な活動からのものであったといえる。しかしながら、この幼稚園クラスは小学校のエリア内にありながら、あくまで遊びが中心のケア重視の保育内容であり、担当は教員ではなく、日本の保育者に相当するペダゴグ (Pædagog)<sup>注6)</sup> である。また、幼稚園クラス入学についても自由な選択が保障されてきた<sup>11)</sup>。

保育所を1年延長するか、小学校にある幼稚園クラスに進級するか、あるいは家庭教育等にするかという選択は、ペダゴグの助言のもと、本人と親の意志によって決定されてきた。例えば身体的な成長が遅れている場合なども、保護者の多くは保育所を1年延長をしてきた。また社会能力や自己形成が幼稚園クラスには適応できない段階と判断した場合には、ペダゴグが延長を勧めてきた。デンマークの場合、年齢進級よりも個々の子どもの成長を確実にしていくことを重視する意識が保護者にあつたからこそ、こうした1年延長が可能であったともいえる。2007年8月の幼稚園クラス開始時には、女兒12%と男児24%が幼稚園クラスへの進級延期をし、保護者の29%が延期を検討していた<sup>12)</sup>。

2009年以降は、特別に問題のある子どもが臨床心理士、あるいは言語療法士の証明書を得なければ、1年延長が困難になった。したがって、個々の子どもの発達保障の問題や、授業として言葉や数字を教えることを義務化することに疑問を呈する保護者や保育者も当然予想された。そこで教育省はペダゴグと教員、保護者、自治体に向けて、幼稚園クラスの重要性を認識するための準備作業をスタートさせた。さらに、これまでの幼稚園クラスとの差別化を図るために、現場においては Børnehaveklasse (ボーンエハベク・クラセ) から0 klasse (ノルテ・クラセ) へと呼称を変更している。教育省は2009年から、それまで選択が自由であった幼稚園クラスを義務教育の初年度として位置付け、すべての6歳の子どもの0年生に入学することを義務化した。

この背景には、前述したようにデンマーク語を第二言語とする子どもたちの教育保障の問題が存在し

ており、すべての子どもを健全な納税者である国民に育成するという国家的な教育政策があったといえる。さらに学校の1学年入学時における子どもたちの社会的スキルや言語発達が不十分であること、幼稚園クラスと学校のカリキュラムの連携不足といった現状が、2006年のデンマーク教育評価研究所の調査により明らかとなり、幼稚園クラスへの学習カリキュラム導入へと動き出したのである<sup>13)</sup>。

(2) 0 学年の学習内容

デンマークでは、ケア・養育・学習を相互にヒエラルキーを付けることなく結び付けて子どもにアプローチしていく、生活基盤型保育のソーシャルペダゴジーの伝統が継承されてきたが<sup>14)</sup>、2012年、デンマークの0学年クラスに、初等教育の連続的なカリキュラムとして、学習カリキュラムが初めて導入された。2012年以前の0学年の教育内容は保育所の保育テーマに準じた内容であった。それまでの保

育テーマは、ソーシャルサービス法により、各自治体の担当者と Dagtilbud (保育園・乳児園・乳児ホーム・学童保育所の総称) のペダゴー及び保護者が合議の上で決定されていたが、2012年の新たなカリキュラム導入により、デンマーク教育省が学習内容を決定していくことになったのである。

図1は幼稚園クラスから0学年への学習テーマの変遷と、1学年への連続性について表したものである。さらに図2は、0学年の各学習テーマごとの具体的な学習内容である。0学年クラスの担任は幼稚園クラスの担任であったペダゴーが継続することになった。したがって、それまでの遊び中心の内容であった幼稚園クラスに授業形式の教育内容を導入する上で、ペダゴーの意識改革が必要となった。ペダゴーと教員との共通認識と共同意識構築のために、学年の意義と必要性について、「良い移行 (God Overgang)」プラン<sup>注7)</sup>を実施した。

表1 幼稚園クラス (0 学年) の学習テーマと1学年への連続性

保育施設 学びのテーマ (2009 年以前幼稚園クラ ステーマ)	2009年 幼稚園クラス 学びのテーマ	2012年 0学年 必修科目	2012年 1学年 必修科目	科目横断 テーマ
言語発達	言語と表現	言語	デンマーク語	社会的 スキル コミュニ ティと 協力の テーマ
		数学的理解	数学	
自然や自然現象	自然や自然現象	自然と自然現象	自然	
文化的表現	音楽表現	創造的芸術表現	絵画アート 音楽	
身体と運動	身体と運動	身体と運動	スポーツ	
社会的スキル	社会的相互作用の スキル	社会性とコミュ ニティ	キリスト教 宗教	
子どもの全面的な 人間形成・個の確立	コミュニティと協 力			

※デンマーク教育省「幼稚園クラスの義務教育段階への移行に関する概説」

[http://uvm.dk/~media/UVM/Filer/Aktuelt/PDF09/090211\\_paa\\_vej\\_i\\_skole\\_dagtilbud\\_lille.ashx](http://uvm.dk/~media/UVM/Filer/Aktuelt/PDF09/090211_paa_vej_i_skole_dagtilbud_lille.ashx)

「0 学年の教育テーマの説明」

<https://uvm.dk/folkeskolen/fag-timetal-og-overgange/skolestart-og-boernehaveklassen/boernehaveklassen> を参考に筆者作成<sup>15)</sup>

表2 0学年の学習領域と学習目標

学習領域	能力目標	会話		お話		言葉の理解		書く遊び		読む遊び		IT・デジタルメディアの遊び	
言葉	様々な方法で言葉を使用できる	聞くこと 自分 を表現 するこ とができ る	話すため の言葉 の特徴を 知る	話の内容を 再現する ことができ る	事実と物 語の構造 の違いが わかる	言葉の発 音や分作 成の学習 ができる	音韻、アル ファベ ットの発 音、文章 の作り方 を試みる ことができ る	短い文章 を書くこ とができ る	文の構造 としての 言葉がわ かる	異なるメ ディアで 短い文章 を読むこ とができ る	読む方 向と単 向な方 法を知 っている	デジタル メディア 上の言 葉を用 いて学 習でき る	デジタル メディア のアイ コン とツ ールの 知識 を持つ
数学的理解	数学や幾何学的な用語を日常生活において使用できる	数字		数の理解		基本的な形		言葉と思考					
		1桁の数字 を読むこ とができ る	数字の形 とその規 則を知っ ている	日常生活 の数の判 断ができ る	数を並べ る知識を 持っている	単純な形 の記憶再 生ができ る	単純な幾 何学的な 形の知識 を持って いる	位置や大 きさを説 明するこ とができ る	簡単な数 学の概念 を持って いる				
自然現象の理解	自分の観察に基づいて、創造的に自然を楽しむことができる	季節		動植物		持続可能性		自然への関心					
		季節や気 候に接す ることが できる	デンマ ークの1 年間の 季節に ついて 知ってい る	身近の動 物や植 物のこ とがわか る	動物の分 類の知識 を持つ	自然の樹 木に適 応した 動作で 遊ぶ考 慮ができ る	自然の中 での適 切な行 動の知 識を持 っている	デジタル ツールを 含む方 法で、自 ら自然 観測を して学 ぶこと ができ る	自然につ いて調 べる方 法を知 ってい る				

創造的、芸術的表現	絵画や音楽、演劇を通して自分を表現することができる	体験		制作		コミュニケーション							
		絵画や音楽や演劇の独自の経験について話ることができる	芸術の基本的なジャンルの特性についての知識を持っている	自分の表現した絵や共同で表現した音楽、演劇での経験を通して学ぶことができる	絵画や音楽や演劇の基本的なツールの技術を持っている	経験と創造的表現に対応することができる	デジタルメディアの知識を持っている						
身体と運動	健康的な活動を選択し、自分の身体を強化することができる	運動や遊び		身体と衛生		健康的な選択		学校の周辺環境		交通及び道路			
		身体の変 化させる ことが できる	運動や身 体につ いての 基本的 な知識 を持ち 、多様 な遊び をする ことが できる	自分の身 体の構 造につ いて理 解する ことが できる	自分の基 本的な 衛生に ついて 習得し ている	細菌や衛 生につ いての 基本的 な知識 を持っ ている	健康的な 食事につ いて一 緒に学 ぶこと ができ る	食生活の 指針につ いて知 っている	学校内 を安全 に移動 するこ とが できる	学校の規 則や物 理的環 境を理 解して いる	簡単な交 通ルール の知識 を持つ ている		
コミュニティーと協力	自分と他者の世話をして、コミュニティーに貢献することができる	参加		約束		協力		感情		自己認識			
		クラス の中で 自分の 存在を 構築し ていく ことが できる	学校の中 での行 動基準 を知っ ている	クラス の中で の約束 の意 味を理 解し、 守るこ とができ る	学校の中 の約束 の基準 を理解 するこ とができ る	まわり との積 極的な 関係を 確立し 、維持 する	クラス の中で の協 働作業 に参 加でき る	自己及 び他者 の感情 に適切 に対応 し行動 する	感情と その表 現につ いての 知識を 持つ ている	自分の強 い点、 弱い 点を知 ってい る	自分と 他者は 異なる ことを 知って いる		

※デンマーク教育省 0年生の教育内容

[http://uvm.dk/~media/uvm/filer/folkeskolereformhjemmeside/faelles\\_maal\\_i\\_alle\\_fag/140514\\_bilagbonehaveklassen\\_uden\\_opmaerk.ashx](http://uvm.dk/~media/uvm/filer/folkeskolereformhjemmeside/faelles_maal_i_alle_fag/140514_bilagbonehaveklassen_uden_opmaerk.ashx) を参考に筆者翻訳<sup>16)</sup>

## 4 3歳・6歳の言語評価プログラム

### (1) 3歳における言語評価

デンマーク教育省は、新しい学校プロジェクトの一環として、子どもたちの早期におけるデンマーク語習得のために、2011年に3歳と6歳における言語評価プログラムを義務化し、翌年2012年より実施している。義務教育段階の教育をスムーズに受けることが可能となるためには、就学前教育の充実化が必須であるということから考案されたプログラムである。すべての子どもがデンマーク語を習得するための支援プログラムとなっており、自治体、保育所と保護者に義務付けられている。3歳における言語評価内容は次の通りである。

- ① 発音・語彙・言語理解・文章や絵・自発音声対話等を評価していく言語評価資料を自治体が提供し、保護者・聴覚士・担当ペダゴグが評価する。
- ② 言語習得のための特別な時間が必要な子どもには、保護者及び担当ペダゴグが言語教育プログラムを受けさせることを義務とする。(自宅保育の場合は自治体が支援する。)<sup>17)</sup>

ボーンホルム (Bornholm) 市における3年間の試験的実践の後、すべての自治体において実施されており、ウェブサイトには、アラビア語・ボスニア語・ヘルツェゴビナ語・英語・ソマリア語・トルコ語等、多言語のよる説明がなされている。言語評価プログラムは、学校以前の段階で子どもの言語発達を地域のすべての大人が保障していくシステムとなっている。3歳における言語評価プログラムにおいて、言語発達についての支援が必要であるとされた子どもたちは、言語療法や心理学の専門家による指導を受けるように保護者に対し、自治体に対応していくことになっている。さらに、その後の6歳における言語評価に向けての指導内容及び成果を、0学年の担当者に報告し、継続した言語教育が実施できるようにしている。

### (2) 6歳における言語評価

教育省は、0学年における言語評価の必要性について次のように述べている。

子どもたちは、生活や遊びのあらゆる場面で言語を機能させていく。それらの背後にあ

る言語発達は、子どもたちが学んだ言語と、遊びやコミュニケーション等の多くの異なった場面での経験との相互作用の中で保障されていく。幼稚園クラスの0学年で教育を始めるとき、学校で話すための新しい言語や、書かれた言語の習得をすることは、ますます重要になっていく。学校の開始時に、言語の発達が十分ではない子供を識別し、何が不十分であるかを明確にし、特別な注意およびサポート、ニーズが必要となる子どもたちの言語発達を保障していくことは非常に重要なことである。幼稚園クラス0学年における言語評価は、すべての子どもたちの音声言語と活字言語の能力開発を目的とするものであり、それらを可能とするためには、適切な課題設定が必要となる<sup>18)</sup>。

子どもたちは、音声言語の世界から活字言語の知識が組み込まれている世界へ移動していく。したがって、リテラシーに大きな影響を持つ言語の評価をしていくことは重要であるとしている。さらに、言語の基礎の上こそ、学校教育の基礎科目は構築できるのであり、評価プログラムは、子どもへの教育を検討していく就学前教育のあらゆる指導者に必要であると示している。

言語評価内容は、スピーキング、リスニング、ライティング、リーディングの4つの言語カテゴリーを基本としている。これらのカテゴリーについては、個々の自治体や学校などによる定義付けと優先順位がなされており、言語評価で使用するための素材も異なっている。これまでは多くの自治体でKIT (Controlled Drawing Attention)<sup>注8)</sup> という言語評価方法が用いられてきたが、課題点も指摘されており、他の評価方法の選択も自由となっている。教育省は自治体や学校における言語評価方法の検討資料として、29の自治体の0学年における幼言語評価の実施概要報告一覧<sup>19)</sup>を公開し、評価方法等の改善に向けての検討を関係者に求めている。一例としてBrøndby市の言語評価概要を示しておく。

表3 0学年における言語評価への取り組みに関する自治体からの報告（Brøndby市）

担当者名	各自治体担当者が記載されている。
評価判断のための 討議	グループディスカッション約20分後に約1時間半の会議
実施担当者	言語評価コンサルタント、0学年担当者、心理学者および1学年担当教員との協力
評価テスト	1人の子どもにつき約20分の個別テスト、1レッスンのグループテスト
素材	画像、文章のタイトル、文章、連続ストーリーや会話イメージに基づき作成された物語の言語
リスニング	さまざまなメッセージを聞いて行動に移す。
ライティング	自身の名前や子どもが知っている言葉を書く。
読書	文字認識装置による認識力判断
評価参考資料	Nikolaj 言語評価 (Special-pædagogisk Forlag), KTI 言語評価 (Dansk psykologisk Forlag), Bogstavbenævnelse fra Læseevaluering på begyndertrinnet 初級読解評価 (Alinea), Sproglig test I 語学テスト 1 (Special-pædagogisk Forlag), dele af Wpsi 知能検査 (Dansk psykologisk Forlag)
その他	保育関係者は3歳児と2ヶ国語の子供の3、4、5歳の子供の言語評価を実施する。各保育所を担当する言語マネージャーがおり、評価後のフォロー内容を決定していく。保育施設に入らない子どものための言語評価は、学校で実施している。

※[http://static.uvm.dk/Publikationer/2009/sprogvrdering/files/kommunale\\_sprogvrderinger.pdf](http://static.uvm.dk/Publikationer/2009/sprogvrdering/files/kommunale_sprogvrderinger.pdf)の一部を筆者翻訳

## 5 教育研究機関と自治体との連携

デンマーク教育省は、教育改革に向けて研究者との連携を推進するため、1999年にデンマーク教育評価研究所 EVA (Denmarks Evalveringsinsitut)<sup>20)</sup>を設立した。デンマーク教育評価研究所 EVA は教育省の下で独立した政府部門として設立され、1992年から1999年まで存在していた評価方法の継続し、デンマークの教育系大学研究者の協力体制の下、保育及び教育（学校教育・職業教育・障害教育）の評価、分析、教育方法の開発を助けるツール提供をする機関である。それらのツールは、政府・地方自治体・教育機関等、様々なレベルで使用される。また、各自治体と連携し、カウンセリング及びコーチングも実施している。教育改革の実施に向けて、学習コンサルタントを派遣し、指導にあたっている。

教育評価研究所は教育省大臣によって任命される研究所所長および様々な関連協議会や省庁が指名する9人のメンバーによる理事会で構成されており、教育政策と直結した教育研究機関であるといえる。

また、学校の理事会、労働組合、雇用者、学生および学生連合、学校長および教員組織も傘下にあることから、非常に実行性が高い組織構成となっている。教育省や他の政府部門や教育機関と連携し、教育評価や教育の質の持続的発展のために、国内外の教育実践や研究を集約している。さらに、北欧諸国との共同研究を通して、教育評価に基づいた新たな教育プラン提案と実施のためのツール開発もしている。

今回の0学年における言語評価の必要性及び内容等についても、デンマーク教育研究所の事前調査を根拠としている。デンマーク教育評価研究所は、36校の0学年816人の児童の語学力を2004年と2007年の2回に渡り比較調査をした。その結果、幼稚園クラスの開始時に、ほとんどの子どもは数字と文字を区別できていたこと、バイリンガル児童の言語理解（語彙と聴解）の技能レベルは、他の学生よりも低いこと、読書における文字知識と音韻意識の総合測定値の低い子どもたちは、ライティングにおけるスペルテストのスコアが他の子どもたちより低かったこと等が明らかになった<sup>21)</sup>。それらの結果

をもとに、今回の言語評価プログラムも考案されている。研究機関の調査結果を直接的に教育プランに反映していけるような体制が確立しているといえる。

評価結果から、支援及び指導が必要な子どもへの個別プログラムが専門家と担当ペダゴギーによって作成され、その後も継続して実施される。

## 6 考察

0 学年の学習内容及び言語評価プログラムの内容からわかることは、デンマークが教育の大きな転換期を迎えているということである。各学校及び各教員に自由な教育を任せてきた伝統的な教育の問題点を明らかにし、グローバル時代に生きる人材教育という視点での教育改革を本格的に始動しているといえる。

さらに、この教育改革の最重要課題が、すべての子どもたちにデンマーク語で生きていく力を獲得させることであり、デンマーク国家が持続可能な社会となるための改革や評価プログラムであると考えられる。したがって、実施の責任義務は子どもに関わるすべての機関にあり、自治体が地域の子どもの発達保障を最終的にチェックしていく位置付けとなっている。政府、教育相、研究機関、自治体、教育機関、保護者の連携が効率的になされており、国家全体の合意による組織的なプログラムであり、実現性が高いものとなっていることがわかる。

筆者は2013年3月に、0学年クラスにおけるデンマーク語の授業をウタスレウ学校 (Utterslev skole)<sup>22)</sup>において参与観察した<sup>23)</sup>。コペンハーゲン市内にある生徒550人の平均的な学校であるが、移民の多い地区でもあり、平均クラスの4割が移民の子どもたちであった。参与観察した授業においても、言語習得の段階で2クラスに分けての授業が実施されていた。言語療法士が、発音を口の形から教えていく授業であった。中にはデンマーク語より英語のほうが理解できる児童もおり、英語で語りかけながらの対応も必要となっていた。現在のデンマークの教育においては、言語評価プログラムが不可欠な要素であると考えられる。

母国語の基本的な発音や筆記スキル等については、すべての子どもたちに必要なことである。移民対応という視点のみではなく、デンマークの0学年における言語評価プログラムは、すべての子どもの言語発達の保障とは何か、具体的に取り組むべき課題を

提示している。個々の子どもの言語発達状況と問題点と解決方法を専門家の助言のもと、保護者を含め、関わる大人のすべてが検討し、支援していくことが重要であることを示唆していると考えられる。

一方、実際の教育現場において、これまで比較的自由な教育活動を実施してきた教員にとって、学校改革は大きな不安材料ともなっている。ウタスレウ学校の教員に学校改革のことを質問したところ、「2014年度から、私たちがどうになってしまうのか心配。デンマークらしい教育がなくなってしまうのではないかという保護者たちもいる。」という言葉が返ってきた。「デンマークらしい教育」だけでは対処できなくなってきた社会状況の中、教育改革によってデンマークの教育がどのように変容していくのか。0学年の改革がデンマークの教育の基盤構築にどのような効果をもたらすのか、今後も注目すべき研究課題となると考えられる。

## 7 おわりに

伝統的に生活基盤型の学びを重視してきたデンマークの0学年の義務教育導入の背景には何があるのか、0学年における言語評価方法はどのようなものなのか。本論においては、デンマークの幼小移行期である0学年の学習内容及び言語評価について、デンマーク教育省の資料等を通して明らかにした。

0学年における言語評価について、さらに研究を進めると同時に、2014年8月から本格的に始動している学校改革が、デンマークの幼小移行期としての0学年の教育にどのような変化をもたらすのか、今後もデンマークの教育の動向に注目していきたいと考える。

### 謝辞

本論文は、JSPS 科研費 JP15K1396 の助成を受けたものである。2013年から2017年に渡り、本研究協力をして下さったウタスレウ学校の教職員の皆様方、生徒の皆様方に深謝の意を表する。

### 注

1. N.F.S.グルントヴィ Nikolaj Frederik Severin Grundtvig (1783-1872) デンマークシェラン島南部のウズビュ村の教会牧師館に生まれ、後にコペンハーゲンで、詩人、牧師として著作活動や言論活動を行った。晩年には政治家として活躍し、デンマーク社会に多大な影響を残し、現在でもデンマークの「国父」と言われている思想家である。
2. クリステン・コル Christen Mikkelsen Kold (1816-1870)



グルントヴィの思想を継承し、教育実践活動とし具現化した。初等教育の口頭教育を重視し、物語や歌を教育の根幹とした。グルントヴィの教育理念は、フリースコーレや生涯教育機関であるフォルケホイスコーレにも継承されており、公立学校におけるの評価方法は学習方法にも多大な影響を与えているといえる。

3. 日本の文部科学省では、プリスクールクラスを学校教育予備課程という名称で示している。デンマークでの正式名称を翻訳すると「幼稚園クラス」となるが、現場では0学年(0 klasse ノルテ・クラセ)と呼ばれている。翻訳した場合、幼稚園という名称に混乱が生じることが危惧されるため、デンマークの現場と同じく、本論においては0学年という名称を用いる。
4. 19世紀のドイツに起源をもつソーシャルペダゴジーは、子どもと関わる仕事のための理論のひとつとされてきた。乳幼児期の子どもに生活全体として関わり、養育していく生活基盤型の考え方である。ドイツ、北欧、中欧諸国はその伝統を継承した保育が実践されているが、中でもデンマーク、フィンランド、ドイツ、ノルウェーに強く残っている。デンマークのペダゴギーも、養成校において、ソーシャルペダゴギーの理論を学び、保育と家庭、地域を結ぶ専門家としての資格を取得する。
5. 本論における移民の定義は、OECDの定義に準じ、下記のすべてを含むものとする。
  - ・両親ともに外国生まれだが、自身も外国生まれの子どもを移民1世とする。
  - ・両親ともに外国生まれだが、自身はその国生まれの子どもを移民2世とする。
  - ・両親の一方、かつ子どもがその国で生まれた場合ネイティブとする。
 斉藤里美監修『移民の子どもの学力』,明石書店,(2007)  
 (=OECD,Where Immigrant Students Succeed A comparative review of performance and engagement in Pisa2003, OECD,2006)
6. ペダゴギー(Pædagog)の職業領域は保育園・学童保育・レクリエーションセンター・老人・福祉施設・養護施設・刑務所など保育・療育全般に渡っている。社会教育士・生活指導員といった邦訳が当てられることが多い。資格取得要件は、基本的には養成機関である専門総合大学における3年半を卒業することである。教員(lærer)とは異なる養成機関であり、日本の保育者(保育士・幼稚園教諭)と教員養成の違いに近い。本論においては、日本の保育士や社会福祉士等との混乱がないよう、ペダゴギーをそのまま使用する。
7. デンマーク教育省は0学年の重要性と学習テーマ及び内容等に関する「学校への良い移行説明書」を保護者、ペダゴギーと教員対象、自治体それぞれを対象とし、説明書を作成配布し、理解と実施への協力を求めた。
8. KTIは、Søllerødの学校心理学事務所のスタッフによって1970年代に開発された子供の言語を評価するためのツールである。広範な普及にもかかわらず、KTIに関する研究は進んでいなかったが、デンマーク教育評価研究所は、0学年の言語評価方法として、KTIの基本的な参考文献紹介と同時に、KTIの問題点と課題についても言及している。いくつかの自治体は、KTI以外の新しい言語評価方法も導入している。

## 引用文献・ウェブサイト

- 1) Steven M.Borisy :『The Land of the Living』Blue Dolpin Publishing. (1991)  
 その他、カイ・タニング :『北方の思想家 グルントヴィ』,渡辺光男訳,杉山書店,(1987)  
 Kai Thaning :『N.F.S GRUNDTVIG』 The Danish Cultural Institute ,Copenhagen, (1972)  
 Ove Korsgaard ,Uffe Jonas.and Clay Warren : The School for Life-N.F.S Grundtvig Education for People,Aarhus Univesity, (2011)
- 2) オヴェ・コースゴー :グルントヴィの教育思想, 日本グルントヴィ教会会報,No24, (2012)  
 Ove Korsgaard : Grundtvig' s Educational Ideas,Heimdal,No24. (2012)、Ove Korsgaard:『Om Lyset Dansk Voksenoplysning Gennem 500ar, Gyldendalske,Boghandel..Living, Blue Dolpin Publishing, (1997)、・児玉珠美 :グルントヴィの教育理念—生きた言葉と相互作用,早稲田大学教育学研究科比較・国際教育学論集,(2015)  
 児玉珠美 :『デンマークの教育の支える声の文化—オリシティに根ざした教育理念』,新評論,(2016)等。
- 3) デンマーク教育省  
<http://www.uvm.dk/Den-nye-folkeskole> 2015 /6/10 最終アクセス。
- 4) OECD At a Glance2013,Countory Note Denmark,  
<http://www.oecd.org/denmark/educationataglance2013-countrynotesandkeyfacttables.htm> 2018/12/1 最終アクセス。  
 OECD Country Deta,  
<https://data.oecd.org/denmark.htm#profile-education> 2018/12/1 最終アクセス。
- 5) OECD : PISA2009  
<https://www.oecd.org/pisa/46660259.pdf> 2018/12/18 最終アクセス。
- 6) OECD :『移民の子どもと格差』,斉藤里美監訳、明石書店, pp31-51,(2011)
- 7) デンマーク教育省  
<http://www.uvm.dk/Den-nye-folkeskole> 2015 /6/10 最終アクセス。
- 8) デンマーク教育省と子どもと社会省の連携について  
[http://uvm.dk/Aktuelt/~UVM-DK/Content/News/Aktuelt/2013/130809-Regeringsrokade-Ministeriet-for-B-oern-og-Undervisning-aendrer-navn2014/6/11](http://uvm.dk/Aktuelt/~/UVM-DK/Content/News/Aktuelt/2013/130809-Regeringsrokade-Ministeriet-for-B-oern-og-Undervisning-aendrer-navn2014/6/11) 最終アクセス。
- 9) 私立学校法  
 Bekendtgørelse af lov om friskoler og private Grund skoler m.v.  
<https://www.retsinformation.dk/Forms/R0710.aspx?id=182103> 2018/12/3 最終アクセス。
- 10) デンマーク公立学校教員組合  
<http://www.folkeskolen.dk/50692/boernehaveklasse-ja-tak2018/12/1> 最終アクセス。
- 11) 青江知子・大野睦子ビャーソウ『個を大切にするデンマークの保育』,山陽新聞出版センター, p.72, (2011)
- 12) デンマーク教育省 保育所から学校への良い移行パンフレット

[http://uvm.dk/~media/UVM/Filer/Aktuelt/PDF09/090211\\_paa\\_vej\\_i\\_skole\\_kommuner\\_lille.ashx](http://uvm.dk/~media/UVM/Filer/Aktuelt/PDF09/090211_paa_vej_i_skole_kommuner_lille.ashx)  
2015/6/22 最終アクセス。

- 13) 0 学年について  
<http://uvm.dk/~media/UVM/Filer/Folkeskolereformhjemmeside/Faelles.ashx> 2015/6/11 最終アクセス。
- 14) Olsen, B : Pædagogik, pædagogmedhjælpere og pædagoger – arbejdsdelinger og opdragelsesaksis i daginstitutionen., Viborg, PUC, (2007)
- 15) 児玉珠美: デンマークの幼小移行期に関する研究—プリスクールクラス『0 学年』の改革に焦点を当てて, 早稲田幼児教育研究所紀要第3号, pp.35-50, (2017)
- 16) 同上
- 17) 3 歳言語評価について  
<http://www.eva.dk/e-magasinet-evaluering/2014/evaluering-august-2014/en-vellykket-sprogvurdering-sadan/> 2015/7/21 最終アクセス。
- 18) 0 学年における言語評価  
<https://www.uvm.dk/folkeskolen/fag-timetale-og-overgange/skolestart-og-boernehaveklassen/sprogvurdering-i-boernehaveklassen> 2018/12/1 最終アクセス。
- 19) 0 学年の義務である言語評価のための参考資料  
<http://static.uvm.dk/Publikationer/2009/sprogvurdering/indledning.html> 2018/12/1 最終アクセス。
- 20) デンマーク教育評価研究所: EVA <https://www.eva.dk/> 2018/12/1 最終アクセス。
- 21) 0 学年言語評価に関する事前調査レポート  
Ord med på vejen Vurderinger af børns sprog i tiden omkring skolestart  
2008 Danmarks Evalueringsinstitut  
<https://www.eva.dk/ord-paa-vejen> 2018/12/1 最終アクセス。
- 22) ウタスレウ学校 Utterslev Skole  
<http://www.utterslevskole.kk.dk/> 2018/12/1 最終アクセス。
- 23) 児玉珠美: 「デンマークにおける 0 年生の授業に関する一考察」早稲田大学教育学会紀要 15 号, pp117-124 (2014)  
児玉珠美: 『デンマークの教育の支える声の文化—オハラティに根ざした教育理念』, 新評論, pp146-152 (2016)

### 資料

ウタスレウ学校 デンマーク語の授業写真  
2013 年 8 月 26 日撮影  
すべての写真について、掲載の許可を得ている。

(原稿受理年月日 2018 年 12 月 5 日)



写真1 IPAT 黒板を使用した 0 学年デンマーク語の授業



写真2 筆記のテキストに取り組む 0 学年の子どもたち



写真3 0 学年の子どもの個別指導にあたるペダゴギー



写真4 1 学年の言語評価別クラスのデンマーク語授業 発音を指導する言語聴覚士